

令和4年度 清瀬市の研究について

清瀬市教育研究会理科部会

全体主題 清瀬の子供たちに育てたい四つの力の育成

～持続発展の主体者となる力、生涯学び続ける力・人間性、生きて働く知識・技能、考える力・判断する力・表現する力～

理科部 課題を自ら見付け、主体的に学習に取り組む子の育成

～児童の仮説をもとにした実験・観察の立案～

1 全体主題と理科部研究主題との関連について

◎市教研全体主題

清瀬の子供たちに育てたい
四つの力の育成

～持続発展の主体者となる力、
生涯学び続ける力・人間性、
生きて働く知識・技能、
考える力・判断する力・表現する力～

本市の全体主題の「清瀬の子供たちに育てたい四つの力」を、理科においては、自然を愛する心情、自然の事物・現象についての理解と観察、実験などの技能、問題解決の力と捉えた。これらは、自然の事物・現象に子供が主体的に関わり、自らもった問題を解決する過程で育成される。理科部では、これまで問題解決の過程を大切にしながら、科学的な見方や考え方を培うことを目指して研究を進めてきた。これまでの研究成果を生かしながら、確かな学力の育成に取り組んでいる。

また、自らもった課題を追究していくことは、関心・意欲の高まりと大きく関わっている。問題解決の原動力である意欲を高め、継続していくためには、自ら課題をもつことが学習のスタート地点となる。令和2・3年度は、自分の気付きや疑問から、学習内容と結びついた追究に値する課題を作ること、その課題を自ら計画を立てて追究することをねらいとして研究を進めた。

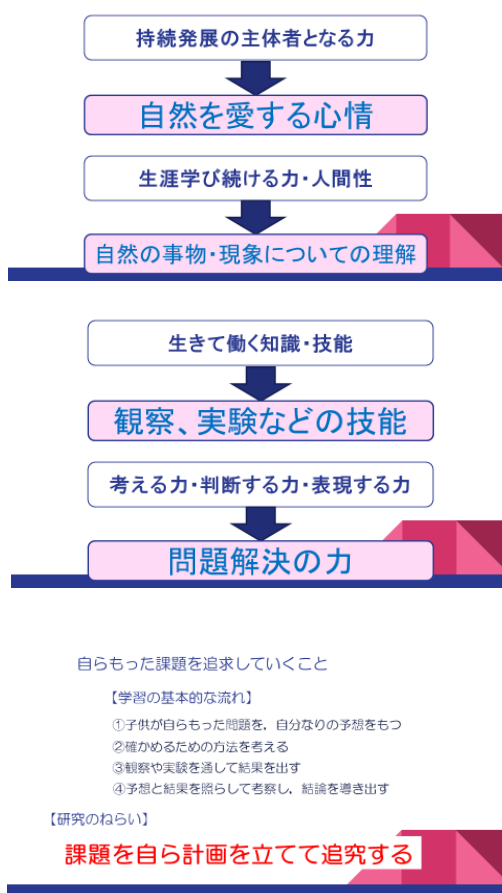
2 研究の進め方について

具体的に研究を進めるため、授業研究と教材の実技研修の2本立てとした。令和2・3年度は特に、現行の指導要領より新たに取り入れられた学習内容に注目して取り組んだ。

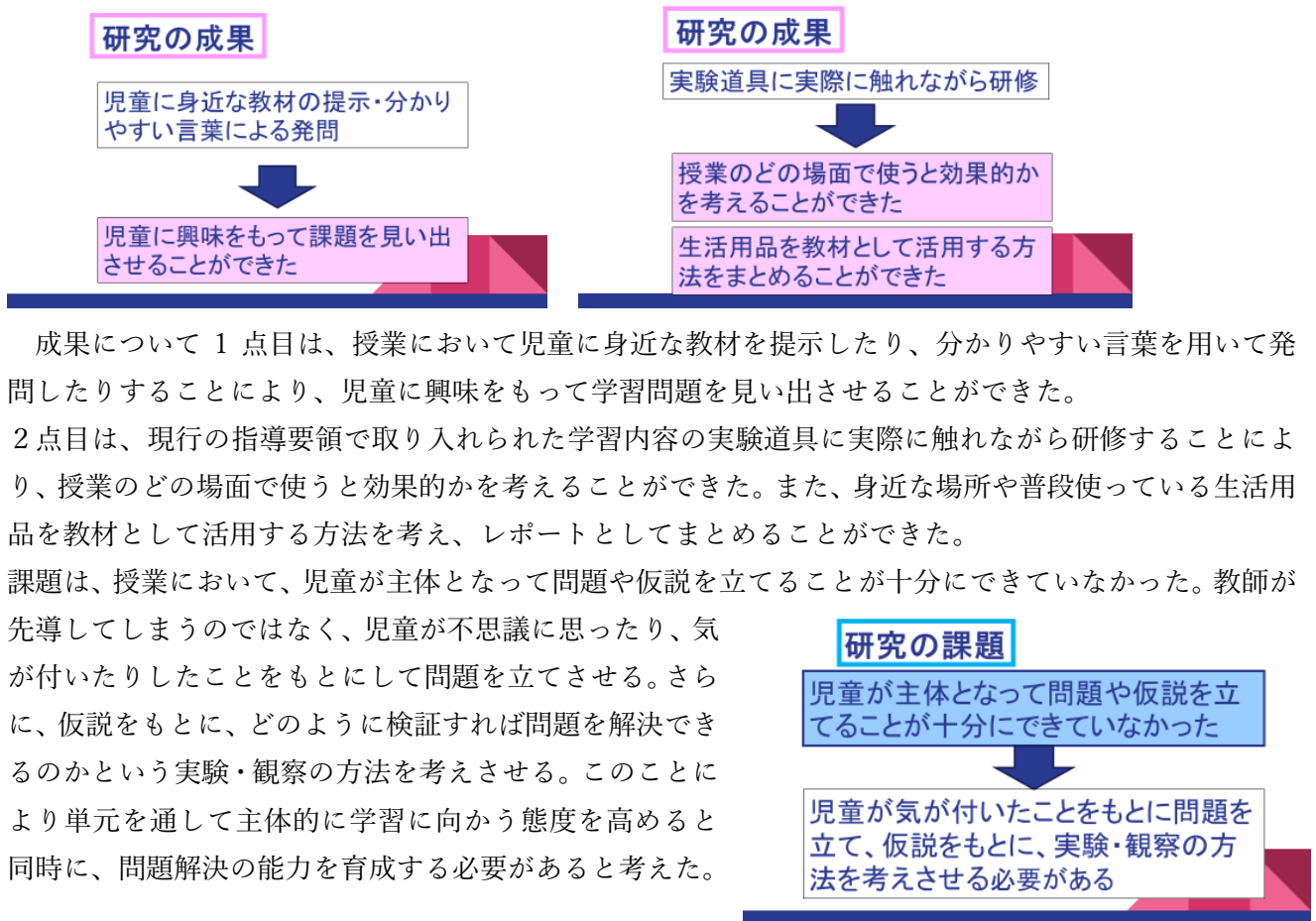
授業研究においては、学習内容と結びついた学習問題を見出し、既習事項や生活経験を基に仮説（根拠のある予想）を立てたりできるようにした。

実技研修は、児童自身が追究に値する学習問題を見出すことができるような自然事象との出会いを考え、導入に生かせる教材や実験をもちより、活用方法を考えた。

（マイクロビットの活用、3年生音の教材、振り子の教材）



3 昨年度の研究成果・課題



成果について 1 点目は、授業において児童に身近な教材を提示したり、分かりやすい言葉を用いて発問したりすることにより、児童に興味をもって学習問題を見い出させることができた。

2 点目は、現行の指導要領で取り入れられた学習内容の実験道具に実際に触れながら研修することにより、授業のどの場面で使うと効果的かを考えることができた。また、身近な場所や普段使っている生活用品を教材として活用する方法を考え、レポートとしてまとめることができた。

課題は、授業において、児童が主体となって問題や仮説を立てることが十分にできていなかった。教師が先導してしまうのではなく、児童が不思議に思ったり、気が付いたりしたことをもとにして問題を立てさせる。さらに、仮説をもとに、どのように検証すれば問題を解決できるのかという実験・観察の方法を考えさせる。このことにより単元を通して主体的に学習に向かう態度を高めると同時に、問題解決の能力を育成する必要があると考えた。

4 今年度の研究について

昨年度の成果と課題を踏まえ、今後も児童の問題解決の力を養い、主体的に学習に取り組む態度を育成していく。今年度は副主題を以下に設定し、研究を進めていく。

～児童の仮説をもとにした実験・観察の立案～

子供たちの問いから、どのように問題を立てるのかを検討し、今年度の研究授業を行っていきます。

令和4年度 第1回	令和4年4月20日(水) 会場：清瀬小学校 内容：本会の趣旨周知、副部長選出、各部テーマ設定、研究発表検討、スケジュール作成、令和4年度外部講師招へい計画作成(予算要望)
令和4年度 第2回	令和4年6月29日(水) 会場：芝山小学校 内容：研究授業「音を出して調べよう」 授業者 宮本 健太郎教諭 講師 岐阜聖徳学園大学 准教授 高木 正之先生
令和4年度 第3回	令和4年10月26日(水) 会場：清瀬第四小学校 内容：研究授業「とじこめた空気と水」 授業者 宮入 哲志教諭 講師 東久留米市立第三小学校 主幹教諭 板場 修先生